

6月の政治・経済イベント

重要 01 米利上げ休止か継続か、データの見極めが必要

米国ではインフレにピークアウト感が見られており、FRB（米連邦準備制度理事会）のパウエル議長は6月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げ休止に傾いているようです。ただし、ピークアウトしたとはいえ依然として水準は高いため、FRB高官の見解は分かれており、今後に発表される雇用や物価などのデータを見極めることとなりそうです。6月FOMCで利上げ休止となるのか、併せて、同日発表のFOMC参加者の政策金利見通しにて7月以降の利上げの可能性が残されるのかも注目されます。

重要 02 中国経済の回復の勢いは限定的、政府支援策に期待

ゼロコロナ政策撤廃後に盛り返しを見せている中国経済は、リベンジ消費とされる外食や旅行は好調ですが、外需の停滞などから生産は回復力が弱く、回復の勢いは限定的です。また、長らく低迷している不動産市場は、政府による国有企業への資金繰り支援を背景に底打ち感が見られるものの、民間企業の新築マンションの工事再開の遅れから住宅購入を見送る人が増えるなど、回復は鈍い様子です。中国経済の回復に勢いをつけるためにも、不動産市場への更なる政府支援策が不可欠と見られます。

重要 03 日銀は大規模金融緩和継続へ

日本は経済の重石となっているデフレからの脱却を確実にすることが必要です。インフレ率は生活必需品やサービス価格を中心に上昇、一方で23年春闘では大幅な賃上げが見られ、日銀の目指す賃金と物価が共に上昇する好循環に向かっていきます。植田総裁は賃金上昇が継続、定着していくかを見極めるとしており、大規模金融緩和継続の見込みです。米ドル円相場への影響が出るか、要注目です。

6月の主な政治・経済イベント

| | 国・地域 | 予定 |
|--------|--|-------------------------------|
| 1日(木) | 米国  | ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（5月） |
| 1日(木) | ユーロ圏  | 消費者物価指数（5月） |
| 2日(金) | 米国  | 雇用統計（5月） |
| 13日(火) | 米国  | 消費者物価指数（5月） |
| 14日(水) | 米国  | 金融政策発表 |
| 15日(木) | ユーロ圏  | 金融政策発表 |
| 15日(木) | 中国  | 鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資（5月） |
| 16日(金) | 日本  | 金融政策発表 |
| 23日(金) | 日本  | 全国消費者物価指数（5月） |
| 30日(金) | 米国  | 個人所得、個人消費支出、個人消費支出デフレーター（5月） |

上記は、すべて現地時間で作成しており、作成時点で利用可能な最新の情報を用いておりますが、発表日は変更される可能性があります。
 (出所) Bloombergデータ等より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。